

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：33604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02593

研究課題名(和文) 主権者教育によって児童の女性観はどう変化するか：潜在意識測定による地域ごとの検証

研究課題名(英文) How Does the View of Children Toward Women Change Through Citizenship Education: Examinations in Three Areas Using a Sub-Consciousness Measurement

研究代表者

秋田 真 (Akita, Shin)

松本大学・教育学部・教授

研究者番号：70805887

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、小学校第6学年児童を対象に、主権者教育におけるジェンダー平等の観点から、選挙におけるクォータ制を扱った授業を開発した。そして、授業の前後において、児童の女性観の変化について、紙と鉛筆だけで意識測定ができるFUMIEテストを用いて測定した。対象は、東京都、香川県、青森県の児童である。いずれの都県においても、授業前の測定では男子児童より女子児童の女性に対する肯定感が相対的に高いことが認められた。そして、授業後の測定では授業前の態度と比較し、肯定的な態度へと改善された結果となった。特に青森県の男子児童については、他県の男子児童と比較し、中立的な女性観から肯定的なものへと大幅に改善した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、次の4点である。1点目は、初等教育において、女性議員比率の格差を扱う主権者教育の授業を開発したことである。2点目は、指導前後において、児童の女性観について潜在連想テストを用いて測定し、その変化を明らかにできたことである。3点目は、児童の女性観が授業後、肯定的に変化したことを明らかにしたことである。最後に、一度授業を受けた児童は、3年後に測定しても肯定感が持続していたことを証明できたことである。

研究成果の概要(英文)：In this research, citizenship (sovereignty) education that focused on gender equality and that dealt with the quarter system in elections was carried out for year six students in primary school. The pre- and post-tests were used to measure the changes in their views toward women before and after the lesson. FUMIE measurement, which requires only pencils and sheets of paper to measure their sub-consciousness, was adopted. Participants of this research were students in Tokyo, Kagawa, and Aomori. The pre-test showed the positive feelings toward women by girls were relatively higher than that of boys. The post-test indicated that their positive feelings toward women were facilitated compared with the pre-test. There was a drastic change from neutral feelings to positive feelings in boys in Aomori.

研究分野：社会科教育・ジェンダー平等教育

キーワード：主権者教育 ジェンダー平等 潜在連想テスト FUMIEテスト IAT 社会科教育 男女同権教育

1. 研究開始当初の背景

主権者として求められる力は、これからの社会においてより重要な資質・能力である。これは、18歳選挙権の導入や2017年公示の新学習指導要領において「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として表記されていることから明らかである。

ここで、主権者教育を進めていく際に避けて通ることができない我が国特有の課題の一つに女性議員比率の格差が挙げられる。申請当時に行われた衆議院選挙では、前回の選挙より女性議員は2名増加し47人となったが、2015年9月1日現在の調査結果では、我が国の女性国会議員は、衆議院で定数475人中45人(9.5%)、参議院で242人中38人(15.7%)、両院を合わせた国会全体で717人中83人(11.6%)となっている。これらの数値は、列国議会同盟の資料が示す世界の国会議員総数に占める女性議員比率(22.5%)に比べてかなり低く、また、「男女共同参画社会基本法」の基本理念の一つである「政策等の立案及び決定への共同参画」が達成されているとは言い難い状況を示している。

このような我が国の現状に対し、主権者教育の中で女性議員比率の格差やそれらを解消するための方策の一つであるクオータ制の導入等を併せて指導した研究や実践について、初等教育ではほとんど見当たらない状況である。

さらに女性議員の比率格差は、国内における地方議会においても同様に見られる。図1は、各都道府県の地方議会に占める女性の割合と、女性議員がいない地方議会の比率を示している。地方議会に占める女性議員の割合が最も高い東京都と最も低い青森県では、主権者教育を扱った同様の授業を行っても、児童の女性観に有意差が存在するのではないだろうかと考えた。

2. 研究の目的

本研究では、小学校第6学年児童を対象に、主権者教育におけるジェンダー平等の観点から、選挙におけるクオータ制を扱った授業を開発することを目的とした。併せて、授業の前後において、児童の女性観の変化について、紙と鉛筆だけで意識測定ができるFUMIEテストを用いて測定し、地域ごとの児童の特徴を明らかにすることとした。対象は、東京都、香川県、青森県の児童である。授業前後における児童の女性観の変化について潜在意識をもとに測定し、地域ごとに検証することで、主権者教育の取り組み方の改善に寄与する可能性についても考慮した。

3. 研究の方法

本研究では、女性議員比率の格差を扱う主権者教育の授業を開発し実践を行い、3都県における児童の女性観の変化を測定した。

まず、主権者教育の授業開発では、対象を小学校第6学年とし、我が国の女性議員割合を高めるためのクオータ制(割当制)導入の是非を扱った。

次に、IATテストや「FUMIEテスト」といった潜在連想テストの作成を行った。IATテストでは、PC画面上に様々な「女性」の写真と「男性」の写真をランダムに1枚ずつ提示する。そして、被験者にできるだけ速く「女性が男性か」の分類をさせる。「女性」ならば左手で「Q」を「男性」ならば右手で「P」を押す。次に、パソコンの画面中央に「成功」「幸福」などの良い概念の単語か「失敗」「不幸」など悪い概念の単語かを提示し、被験者にできるだけ速く「良い意味の単語か悪い意味の単語か」の分類をさせる(=整合課題)。最後に、上記の2つの課題を「女性」と「良い」が同じキーで、「男性」と「悪い」が同じキーとなる場合と、逆の組み合わせ(「男性」と「良い」が同じキーで、「女性」と「悪い」が同じキー)になるものの2種類を用意して実施する(=非整合課題)。この、整合課題と非整合課題での反応時間の差が潜在意識(=本心かどうかを計る)の指標となる。よって、IATの測定のため、プログラムの作成を行い、授業前後で児童を測定し、女性観の変化を見取った。

そして、より多くの児童を対象に実施していくため、IATテストを簡略化した「FUMIEテスト」を実施した。「FUMIEテスト」はテスト用紙(A3サイズ)形式にし、1行ごとに制限時間で処理させるテストである。このテストでは作業量の差が指標となる。IATテストと比較し精度が落ちるものの「FUMIEテスト」は集団で一斉に実施することができ、実施時間も5分間程度であり、小学生でも容易に取り組みせることができた。

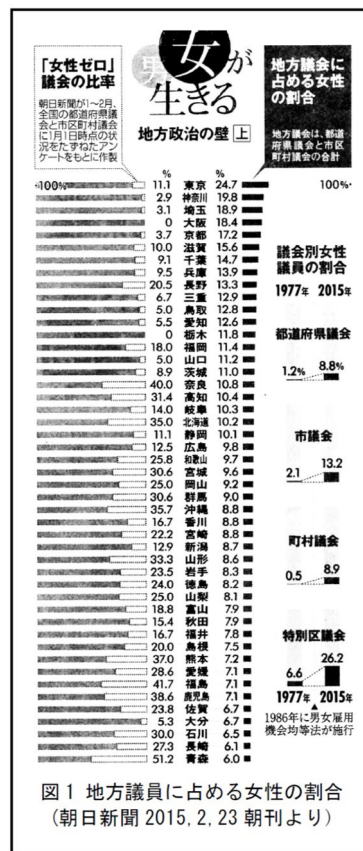


図1 地方議員に占める女性の割合 (朝日新聞 2015. 2. 23 朝刊より)

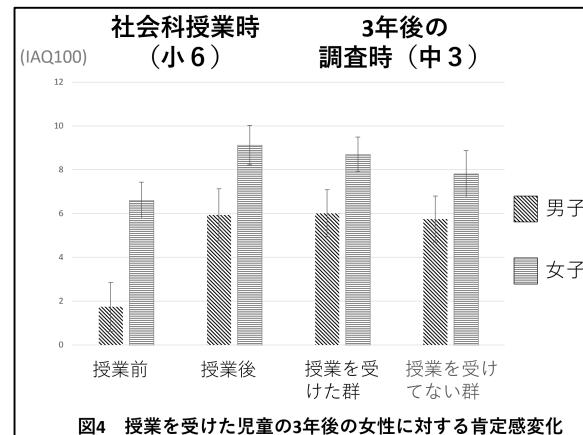
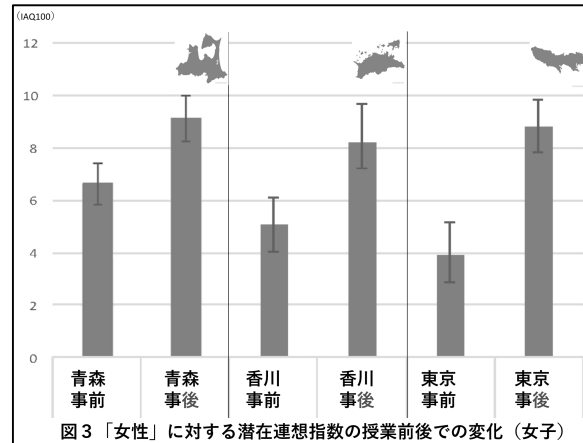
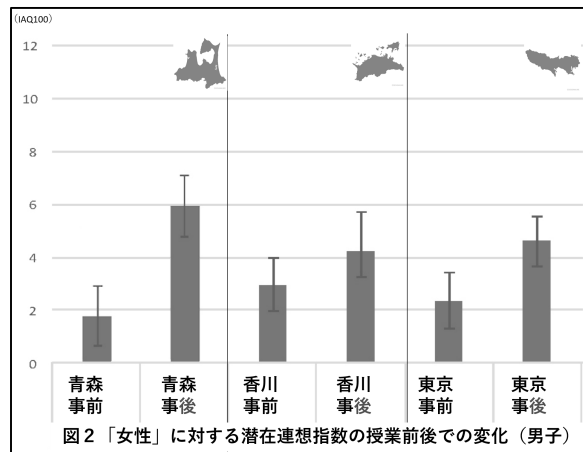
4. 研究成果

研究成果は、次の4点である。1点目は、初等教育において、女性議員比率の格差を扱う主権者教育の授業を開発できたことである。10～20代単身女性の貧困を切り口とし、女性議員の割合を高めるためのクォータ制導入の是非について考える価値判断授業を開発した。授業では、架空の小選挙区を設定し、「定数を同一性別で独占しないこと」という条件を付け、児童に考えさせる展開とした。児童は、女性議員割合の向上や死票を考慮しながら意思を決定していった。

2点目は、指導前後において、児童の女性観について潜在連想テストを用いて測定し、その変化を明らかにできたことである。IATや「FUMIEテスト」では、小学校第6学年の発達段階を考慮し、使用する単語が理解できるかどうかを調査した。その結果を踏まえ、IATのプログラムや「FUMIEテスト」の検査表を作成したりすることが可能となった。

3点目は、児童の女性観が授業後、肯定的に変化したことを明らかにしたことである。3都県全てにおいて、授業後の女性に対する肯定的な態度が増加していることが伺えた(図2・3)。特に女子児童については、男子児童に比べ女性に対する肯定的な態度が高いことが共通してみられた。

最後に、一度授業を受けた児童は、3年後に測定しても女性に対する肯定感が持続していたことを明らかにできたことである(図4)。本研究における主権者教育を受けた85名の生徒を対象に「FUMIEテスト」を行った。その結果、授業後の女性に対する肯定感が、中学3年生となった後も肯定感が持続していたことが認められた(図4)。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Akita Shin、Mori Kazuo	4. 巻 46
2. 論文標題 How implicit image of woman changed in Japanese sixth-grade children after a gender equality education lesson	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of Social Studies Research	6. 最初と最後の頁 153-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jssr.2021.05.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 秋田 真	4. 巻 19
2. 論文標題 小学校主権者教育におけるIATを用いた潜在的な女性観抽出の試案：クォータ制を用いた価値判断を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松本大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 83-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 秋田 真， 對馬 秀孔， 齋藤 敏一， 守 一雄	4. 巻 17
2. 論文標題 小学6年生版集団式潜在連想テストの試作と実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松本大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 165-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Akita Shin、Mori Kazuo	4. 巻 3
2. 論文標題 Implicit image of women improved in Japanese children after gender equality education and maintained three years later	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 SN Social Sciences	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s43545-023-00655-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kazuo MORI and Shin AKITA
2. 発表標題 How implicit image of woman changed in Japanese children after gender equality education: Follow-up data showed the education effect was maintained after three years.
3. 学会等名 APS Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shin Akita
2. 発表標題 How Implicit Image of Woman Changed in Japanese Sixth-Grade Children after a Gender Equality Education Lesson
3. 学会等名 Society for Applied Research in Memory and Cognition (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋田 真
2. 発表標題 小学校主権者教育におけるIATを用いた潜在的な女性観の抽出
3. 学会等名 日本公民教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋田 真
2. 発表標題 小学校主権者教育における潜在連想テストを用いた女性観の抽出
3. 学会等名 社会系教科教育学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 秋田 真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松本大学出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 小学校社会科における価値判断の授業開発：包摂主義を基軸とした価値類型の有効性	

1. 著者名 秋田 真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 デザインエッグ社	5. 総ページ数 114
3. 書名 小学校社会科「みんなにやさしい」価値判断の授業方法： - アクティブ・ラーニングを実現する授業 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携 研究 者	守 一雄	東京農工大学・工学(系)研究科(研究院)・名誉教授	分析及び助言
	(Mori Kazuo)		
	(30157854)	(12605)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------